

開催地名	熊本県熊本市
開催日時	令和8年2月1日(日) 9:30~11:30
開催場所	西部環境工場 管理棟2階大会議室
語り部	井上 達彦(宮城県石巻市)
参加者	約100名
開催経緯	春日、中島校区で防災会があり、消防団活動をしてきたが、自分たちができる活動に限界があるため区役所に相談したところ、防災アドバイザーが全国各地で講演会をするイベントがあることを知り、この講演会を開催することになった。
内容	<p>「地域に於ける防災士の活動について」</p> <p>(1) はじめに 初めて訪れた熊本の温かさに触れ、また、かつて東日本大震災の折に皆様からいただいた多大なるご支援を思い返し、改めてこの場をお借りして深く感謝したい。</p> <p>石巻は牡鹿半島の付け根に位置する、漁業と農業の街である。震災から15年が経過し、堤防や道路といったハード面の復旧はほぼ完了した。</p> <p>しかし、ソフト面である人々の心の復興はどうだろう。今なお震災の影を引きずっている方が大勢いる。人口16万人のうち4,000人が犠牲となり、この15年で3万人もの人々が街を去った。</p> <p>私は、あの日失われた多くの命への鎮魂の思い、そして「二度とこれほどの犠牲を出してはならない」という決意を胸に、今日まで活動を続けてきた。</p> <p>(2) 被災の記録：あの日、一瞬で変わった日常 津波に対してどのようなイメージを持っているだろうか。実際は映画のような高い壁ではなく、逃げ場を許さない「エネルギーの塊」が、地面ごと盛り上がってくるような恐怖がある。大川小学校では、児童・教職員合わせて84名もの尊い命が、川を遡上してきた津波に飲み込まれた。</p> <p>私が防災活動に身を投じるきっかけとなった、一枚の写真を見てほしい。2階のベランダから撮った、濁流に流される無数の車の姿である。</p> <p>当時、私の妻も自宅に戻っており、危うく難を逃れたが、多くの方が「まさかここまで来ないだろう」と家に戻り、あと一步で2階へ上がれるというところで犠牲になった。建物の倒壊ではなく、津波と雪の降る夜の寒さが命を奪ったのである。この無念を私は生涯忘れることができないでいる。</p>

(3) 事前の備え：資格を「眠らせない」組織づくり

震災後、石巻市では市の予算で400名以上の防災士を養成した。しかし、調査をしてみると、実際に活動している人はわずか3割。「活動の場がない」というのが現実だった。市に聞いても「その後の計画は考えていなかった」と言われた。

そこで2019年、私たちは市町村単位では初となる「防災士協議会」を立ち上げた。行政に頼り切るのではなく、民間人だからこそできる活動を地道に積み重ねてきたのである。

- 草の根の顔づくり：手作りのパンフレットを持ち、民生委員やPTA、学校を歩き回った。「防災の授業があれば協力させてください」と一軒一軒、信頼を築いていった。
- メディアの活用：地元のFM局でラジオ番組を4年間続け、被災体験を持つ会員の声を発信し続けている。全員が被災者ですから、言葉の重みが違う。
- 「発災前」の5つの柱：地域防災力の向上、学校教育への協力など、私たちの活動はすべて「発災前」に集中している。命さえ守れば、その後の対応は必ずできる。

(4) 心のケアと実践：日常の中にある防災

避難所運営の訓練で私たちが強調しているのは、「行政はすぐには来ない。自分たちでやるんだ」という意識である行政職員もまた被災者。公助が届くまでの3日間から1週間を生き抜くのは、地域のコミュニケーション、つまり「共助」の力に他ならない。私たちの訓練は、失敗を歓迎し、楽しみながら学べる工夫を凝らしている。

- 非常食の日常化：アルファ米にお湯がない時は、オレンジジュースやトマトジュースで炊いてみる。こうした「遊び心」が、極限状態での知恵に繋がっていく。
- ローリングストックの推奨：特別な非常食を買うのではなく、普段の食材を多めに備え、食べたらずいぶん。日常の中に防災を溶け込ませることが理想的である。

- 体験の重要性：車椅子での避難も、実際に段差を通過してみなければ分からない。「訓練での失敗」は、本番への最高のプレゼントだ。

(5) 伝えたいこと

災害は「忘れた頃」にやってくるのではなく「忘れていなくても」やってくる。自然現象を止めることはできないが、被害を最小限に抑えることは、私たちの努力で可能になる。

家具の固定、非常持ち出し袋の点検、そして地域での声掛け。これらは今日、この後すぐにでも一人で始められる。壊れた建物は建て直せるが、命は一度失えば二度と戻らない。皆様、どうか今日この場から、大切な人を守るための「アクション」を起こしてほしい。自分たちの手で命を守る準備をすること、それこそが真の「共助」の始まりである。石巻の教訓を皆様の地域の力に変えていただけることを願っている。



開催地より

講師の先生のお話ユーモアがあって分かりやすく、これからの避難訓練等の活動計画を策定するのに参考にしていく。